

平成31年度 学校経営計画に対する最終報告書

石川県立金沢西高等学校 (1/2)

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析(成果と課題)及び次年度の扱い(改善策等)
1 ICTの効果的な活用や主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に努め確かな学力の育成を図り、進路実現につなげる。	① 研究授業、相互参観授業を通して授業改善を図り、探究的な学習活動や質の高いグループ活動などを取り入れた授業を実施する。	ICTの活用など授業に工夫が見られるとする肯定的評価が A 80%以上 B 75%以上 C 65%以上 D 65%未満	生徒による後期授業評価アンケートで肯定的評価は81% →総合評価【A】	今年度は「効果的なICTの活用」に焦点を絞った調査をしている。今後も思考力・判断力・表現力を高める授業を目指し、さらに改善充実を図りたい。
		授業を通じて学力がついてきているという肯定的評価が A 90%以上 B 80%以上 C 75%以上 D 75%未満 ※3年連続で80%以上の場合、目標達成とする。	生徒による後期授業評価アンケートで肯定的評価は78% →総合評価【C】	学力向上のために学習意欲の喚起や予習復習を要する授業などに取り組んでいきたい。 この項目は生徒の授業に対する満足度を示すもので、評価B以上に取り組みたい。評価Cなので、評価結果を分析し教科それぞれにおいて具体的な方策を検討する。
	② 「総合的な探究の時間(西高SDGsプロジェクト)」の活動を通して、主体的・探究的・対話的に学び活動する態度を養う。	生徒によるアンケートで「主体的・探究的・対話的に活動に取り組んだ」とする肯定的評価が A 95%以上 B 90%以上 C 85%以上 D 85%未満	生徒アンケートによる評価で肯定的評価は90.6% →総合評価【B】	肯定的評価が昨年より約5ポイント下がったが、本年度の評価の方が妥当な結果であろう。今後も改善を加え、生徒が納得できる活動にしていきたい。
	③ 家庭学習時間量調査を実施して現状を把握・分析し、指導することで進路実現にむけた学習時間の確保を促す。	家庭学習時間が「学年+1時間」に達している生徒の割合が A 50%以上 B 40%以上 C 30%以上 D 30%未満	家庭学習時間調査では →総合評価 1年【D】18.1% 2年【D】4.8% 3年【D】23.7% ※3年の調査は9月で終了	前年度に比べ1、2年は減少、特に2年の状況は深刻。3年は増加。3年9月調査では45%あり、受験生として頑張りをを見せてくれた。殆どの生徒が進学する本校において現状は非常に厳しく、全ての学年で学習時間を増やす手立てを検討する。
	④ 校外模試のデータを教科と学年が連携をとって分析し方策を検討することで、学力向上に結び付ける	1月の校外模試3教科型偏差値52以上が A 120名以上 B 100名以上 C 80名以上 D 80名未満 ※1・2年別に達成度を判断する 10月校外記述模試偏差値50以上が A 100名以上 B 80名以上 C 60名以上 D 60名未満 11月マーク模試総合偏差値52以上が A 100名以上 B 80名以上 C 60名以上 D 60名未満	1月記述：偏差値52以上の生徒数 1年101名 → 総合評価【B】 2年93名 → 総合評価【C】 10月記述： 偏差値50以上の生徒数 1年98名 → 総合評価【C】 2年78名 → 総合評価【D】 偏差値50以上の生徒数 3年44名 → 総合評価【D】 11月マーク：偏差値52以上の生徒数 3年23名 → 総合評価【D】	1、2年においては、共通テストを見据えた思考力、判断力、表現力を問う出題に対し、十分に対応できていない面もある。出題傾向を分析し、授業、定期試験に反映させていく必要がある。 模試ごとに、各教科で分析し、対策をとっているが、受験生が絞り込まれてくる3年において成績を維持、向上させることが年々難しくなってきた。補習、個別添削をさらに工夫していくことはもちろんだが、1年の初期指導、進路行事や探究活動を通しての進路意識の涵養など、低学年における指導が重要性を増している。
⑤ 進路学習を充実させることで、高い進路目標を持たせ、最後まで目標実現のため努力を継続させる指導を行う。	①国公立大学合格者数(過年度卒含む)が ②金沢大学、富山大学合わせた合格者が A ①100名以上 かつ ②30名以上 B ①70名以上 または ②25名以上 C ①50名以上 または ②20名以上 D ①50名未満 かつ ②20名未満	①90名：筑波大、新潟大、富山大、石川県立大、石川県立看護大、公立小松大、都留文科大など ②26名：金沢大学5、富山大21 →総合評価【B】	12月末現在の推薦入試の結果は、前年度より2名多く、筑波大、新潟大に合格者を出すなどまずまずであった。 一般入試では、超安全志向の厳しい受験環境において、上位層が薄く、苦戦が予想される。生徒に寄り添いながらそれぞれの状況に応じた支援を最後まで行い、納得度の高い進路決定をさせていきたい。	
学校関係者評価委員会の評価		「総合的な探究の時間(西高SDGsプロジェクト)」を核とした探究的な学びに対する取組は、本校の強みであり特色になりつつある。この学びを教科に対する学習意欲に結びつけることを通して、学習時間を確保し、希望する進路実現を達成してほしい。		
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善策		来年度は、「総合的な探究の時間(西高SDGsプロジェクト)」の取組3年目となるので、「探究活動」を進路指導の中で生かしていくための手立てを講じていきたい。		
2 組織的な生徒指導を通して、規範意識を高め、将来の主権者としての自覚を促し自立した社会人たる判断力・行動力を養う。	① 朝の挨拶運動において生徒会と協力して活性化を図る。自ら発する伝わる挨拶を実践し、社会人として必要なコミュニケーション能力を培う。	生徒によるアンケートから、いろんな人に自ら発して伝わる挨拶ができたが、 A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	生徒による後期学校評価アンケートで肯定的評価は80% →総合評価【B】	特に運動部に所属している生徒は相手に伝わる挨拶を実践している。生徒会執行部主催の「愛拶運動」も継続し、さらに高評価を目指したい。
	② 登校指導等において、自転車乗車マナーの向上を目指し、交通ルール遵守の精神を忘れず、安全に配慮できる判断力と注意力を身につけさせる。	自転車乗車違反件数が、年度末累計で A 30件未満 B 30件以上 C 40件以上 D 50件以上	12月末現在の違反指導件数が14件と大幅に減少している。 →総合評価【A】	昨年度の12月末現在の違反件数は35件あり、今年度全体では大幅に指導件数の減少が見込める。3月末まで気を緩める事なく、指導の継続を図りたい。30件以下の数値を目指す。
	③ いじめは決して許されない行為であることを周知し、他者の心情を配慮できる思いやりの心を醸成する。未然防止に取組とともに、居心地の良い学校づくりに努めていく。	互いを尊重できる居心地の良い学校であるかのアンケート集計で、肯定的評価が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	生徒による後期学校評価アンケートの肯定的評価は86% →総合評価【B】	今年度より、互いを尊重できる居心地の良い学校であるかを把握する質問に変更した。 評価Bではあるが、否定的評価の生徒も1割を超えていることにも注視し、個々の生徒に対応したい。

石川県立金沢西高等学校 (2/2)

	④	自己管理能力を高めるために、自らの健康問題にしっかりと向き合う態度を養う。	視力と歯の要受診者の受診率が A 60%以上 B 50%以上 C 40%以上 D 40%未満	視力：24.9% 歯科：20.4% →総合評価【D】	前年度の受診率と比較すると視力はほぼ変化はないが、歯科は10%弱向上した。しかし、受診率は依然として低く対策の改善が必要である。今後も指導の充実を図りたい。	
学校関係者評価委員会の評価		体調不良の一因としてスマートホンの使用に問題があることが危惧される。自己管理能力を高めるために、自らの健康問題にしっかりと向き合う態度を養う指導に努めてほしい。				
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善策		スマートホンの使用に関しては保護者と学校が連携し、生徒自らが自分自身で考えて行動できるような支援を行う。その際に、外部人材も積極的に活用していく。				
3	文武両道の実践のもと、部活動の更なる活性化を図り、心身の錬磨を通して、人間力を高めチャレンジ精神を培う。	①	運動部・文化部ともに活動内容の充実と挨拶などの規範意識の醸成を図りながら部員数の増加・定着に努める。	部活動加入率が A 95%以上 B 90%以上 C 85%以上 D 85%未満	前期調査(5月：1～3年)は93%、後期調査(12月：1・2年)は91%。12月末現在で年間部活動加入率は92%となった。 →総合評価【B】	特定の部活動で2年生の退部者が若干名出た。昨年同様、部活動の意義と継続する大切さを教師側がしっかりと生徒に伝え続ける姿勢が必要である。
		②	運動部・文化部ともに計画的かつ効率のよい練習を行い、好成績につなげる。	(運動部) 県高校総体総合成績が A 10位以内 B 20位以内 C 30位以内 D 31位以下 (文化部) 各種大会・コンクールにおける年間の獲得賞状枚数が A 20枚以上 B 15枚以上 C 10枚以上 D 10枚未満	県高校総体総合成績は20位。 男子17.5点・・・33位 女子45.5点・・・11位 文化部の各種大会・コンクールにおける年間の獲得賞状枚数は12月末現在、15枚。 →総合評価【B】	県高校総体総合成績については昨年度の21位から順位を上げた。男子団体競技の成績が振るわなかったが、女子団体競技(フェンシング・バスケットボール)、個人種目(水泳・飛び込み)の奮闘もあり、総合順位を上げた。今後は各都でさらなる効果的な部活動指導の継続に努めていく。文化部は、前年度の18枚よりも減少しているものの、かるた部の台頭など幅広い部の活躍につながっていくよう継続して指導していきたい。
学校関係者評価委員会の評価		部活動と学習の両立が図れるように指導してほしい。				
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善策		生徒手帳「ジャンプ」などを活用し、部活動と学習の両立に生徒が主体的に取り組めるよう支援していきたい。				
4	ボランティア等の諸活動や情報の発信を通して、保護者、地域との連携を密にし、信頼される学校づくりを行う。	①	学校教育活動について、ホームページやメール配信、学年通信等による積極的な配信に努め、保護者や地域の方の一層の理解・協力を得る。	学校の情報提供は十分に行われているという保護者が A 85%以上 B 80%以上 C 75%以上 D 75%未満 PTA総会、教育ウィーク、進路説明会等での保護者の来校のべ人数 A 1000名以上 B 700名以上 C 500名以上 D 500名未満	保護者による後期学校評価アンケートで肯定的評価は85% →総合評価【A】 726名 →総合評価【B】	今年度は、積極的に先生方への声かけを行ったことで向上した。今後も、さらなる充実を図っていきたい。C、Dの場合、評価結果を分析し、方策を検討する。
		②	各分掌や各学年、各教科と連携し、生徒の読書活動を促進する。	図書館の貸出冊数生徒1人あたり12月末まで A 4冊以上 B 3冊以上 C 2冊以上 D 2冊未満	図書 1.5冊 →総合評価【D】	現時点での実績：合計726名(内訳) PTA総会 226名 進路説明会 378名 保護者説明会 27名 教育ウィーク 95名 朝読書、授業での活用が減少したため伸ばすことができなかった。総合的な学習の時間に生徒が活用した場面もあったが、貸出までには至らなかった。引き続き、担当部署や学年会と改善策を講じたい。
		③	節電・節水、ゴミの分別や紙の3Rs活動を通して、環境保全活動への意識関心を高める。	『いしかわ家庭版環境ISO「省エネ・節電アクションプラン」』を実践し、その回収率が A 60%以上 B 50%以上 C 40%以上 D 40%未満	回収率 64.2% →総合評価【A】	今年度は対象者が1、2年と教職員に縮小されたこともあり、回収率が上がった。年間を通して、環境保全活動を意識させていきたい。
学校関係者評価委員会の評価		読書活動を促進する取組を工夫してほしい。				
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善策		図書館の利用促進に向けて生徒の意見も取り入れながら改善策を検討する。				
5	「教職員の多忙化改善に向けた取組方針」を踏まえ、教職員の時間外勤務縮減に向けて勤務時間を適正に管理し、業務改善に向けた学校マネジメントを推進するために具体的な取組を行う。	①	ワークライフバランスを常に意識し校務の効率化に向けて具体的な取組を実践する。	具体的な取組を実践し、時間外勤務が減少した教職員の割合が A 80%以上 B 60%以上 C 40%以上 D 40%未満	職員への後期アンケート結果 「ワークライフバランスを意識し、業務の効率化に取り組む、時間外勤務が減少している」の肯定的評価は64.5% →総合評価【B】	前期のアンケート調査より5.5%増加した。勤務時間記録表(4月～12月)では、時間外月平均が、今年度45.1時間(2707分)前年度47.5時間(2850分)となり、前年比2.4時間(143分)の削減となった。また、過労死ラインと言われる時間外80時間超えの延べ人数は62人(前年79人)に減少した。教育の質を落とさずに勤務時間を縮減することは大変難しいことだが心身の不調を訴える職員が多数発生していることを踏まえ、着実に働き方改革を推進していきたい。
		学校関係者評価委員会の評価		教職員の心身の健康を守るために、今後も積極的な業務改善に取り組んでほしい。		
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善策		校務分掌の体制を見直し、効果的・効率的な業務を行えるように業務改善に努める。				